

山梨日日新聞に

昭和町委託事業

認知症伴走型支援拠点

ひばり

が掲載されました。

県内初！



山梨日日新聞

2024年(令和6年) 8月7日 水曜日

ネットワーク



昭和町が県内初

峡中



桑原久美子
井村 賢紳

認知症伴走型支援へ拠点

昭和町は、同町飯喰の介護老人保健施設ひばりに、認知症の人や家族が継続的に相談できる「認知症伴走型支援拠点を整備した。県内での整備は初めて。専門的な知識を持ち、日頃から現場で認知症ケアに当たっているスタッフが相談に応じる。担当者は「窓口の一つとして気軽に利用してほしい」と呼びかけている。

〈桑原久美子〉

介護施設の専門職 相談対応

町福祉介護課によると、認知症伴走型支援拠点は、グループホームなど地域にある資源を活用して整備し、認知症の人の日常生活や介護方法に関するアドバイスを継続的に行う。

町地域包括支援センターに昨年度寄せられた認知症に関する相談件数は907件で、5年前(2018年度、161件)に比べて5

・6倍に増加している。こうした状況を受け、町は地域で相談できる窓口を増やし、支援体制を充実させようとして、ひばり苑に委託して6月に整備した。

ひばり苑では第2、4木曜の午後1時半～3時半に相談室を開所し、社会福祉士、ケアマネジャーなどの資格を持つスタッフ3人が

打ち合わせをするスタッフらと昭和町飯喰の介護老人保健施設ひばり苑

の担当者は「認知症であってもそうでなくても、安心して生活できる地域づくりにつなげたい」と話している。

問い合わせはひばり苑、電話055(275)9511(平日午前9時～午後4時)。

町福祉介護課によると、認知症の人や家族が継続的に相談できる「認知症伴走型支援拠点を整備した。県内での整備は初めて。専門的な知識を持ち、日頃から現場で認知症ケアに当たっているスタッフが相談に応じる。担当者は「窓口の一つとして気軽に利用してほしい」と呼びかけている。

町福祉介護課によると、認知症の人や家族が継続的に相談できる「認知症伴走型支援拠点を整備した。県内での整備は初めて。専門的な知識を持ち、日頃から現場で認知症ケアに当たっているスタッフが相談に応じる。担当者は「窓口の一つとして気軽に利用してほしい」と呼びかけている。

町福祉介護課によると、認知症の人や家族が継続的に相談できる「認知症伴走型支援拠点を整備した。県内での整備は初めて。専門的な知識を持ち、日頃から現場で認知症ケアに当たっているスタッフが相談に応じる。担当者は「窓口の一つとして気軽に利用してほしい」と呼びかけている。

町福祉介護課によると、認知症の人や家族が継続的に相談できる「認知症伴走型支援拠点を整備した。県内での整備は初めて。専門的な知識を持ち、日頃から現場で認知症ケアに当たっているスタッフが相談に応じる。担当者は「窓口の一つとして気軽に利用してほしい」と呼びかけている。